

令和5年度 第1回
県南西部地域医療構想調整会議 議事概要

日時：令和5年6月29日（木）14:00～16:30

場所：岡山県備中県民局会議棟第1・2・3会議室

令和5年度「第1回県南西部保健医療圏保健医療対策協議会」及び「第1回県南西部地域医療構想調整会議」は同日に開催した。「1開会」から「3岡山県医療推進課から情報提供」までは両会議の共通事項とし、「4議事」については、それぞれの会議ごとで開催した。

<共通事項>

【委員の紹介】

- ・出席者名簿と席次表により委員の紹介に代えさせていただく。

【挨拶 備中保健所長】

- ・岡山県では平成30年4月に策定した第8次岡山県保健医療計画に基づき、全ての県民がきちんとした生活を送れるように良質な保健サービスが受けられる体制の確保を図るべく、関係団体の皆様、そして市町の皆様と共に、さまざまな施策、事業に取り組んでいる。
- ・第8次計画の計画期間が本年度末をもって終了することから、県では次期、第9次の計画の策定作業を進めており、当保健所でもそれと歩調を合わせて、第9次の県南西部保健医療圏の地域保健医療計画を策定するために、本日の保健医療対策協議会を開催させていただいている。
- ・後半の県南西部地域医療構想調整会議は、将来の病床数の必要量などを定めた地域医療構想を推進するための協議の場です。計画を策定するための保健医療対策協議会と地域医療構想の実現のための協議の場である地域医療構想調整会議は、密接に関係します。
- ・委員の皆様方はその両方を兼ねておられる方が多いことから、本日はこの協議会と調整会議を同時開催にさせていただいた。ご出席の皆様方には、忌憚の無いご意見をいただきたい。

【岡山県医療推進課から情報提供（資料1参照）】

岡山県保健福祉部医療推進課から、資料による説明

〔質疑・意見等〕なし

<個別協議事項>

【議長・副議長の紹介】

議長：難波 一弘 委員（倉敷医師会 会長）

副議長：難波 義夫 委員（岡山県病院協会井笠支部 支部長）

議事

【1 笠岡市新病院基本計画（素案について）（笠岡市立市民病院）】

事務局	・笠岡市民病院について、昨年度、「笠岡市立市民病院経営強化プラン」について、協議し合意したが、この度基本計画（素案）が出来上がったとのことで、報告していただく。
-----	--

〔笠岡市立市民病院から、作成資料に基づき説明あり〕

〔質疑・意見等〕

委員	・全室個室から多床室をという変更は、コストの面だけなのか、何か利用者の方のニーズがあったのか。
笠岡市	・全室個室化をやめて、個室割合を3割以内と変更なった一番大きな理由としては、コストの削減になる。全室個室をやめて、一部を個室化し、残りを多床室とするが、当初全室個室を目指していた目的としての、感染症対策、プライバシーの確保については、間仕切りの工夫などで対応していきたい。
委員	・笠岡市市民病院としてのBCPがもうできているか。どういう感じで備蓄を蓄えるような予定になっているのか。
笠岡市市民病院	・BCPに関しては、今後策定していく。備蓄などの運用も含めて同時に進めていきたい。
委員	・笠岡市立市民病院は避難場所になっているのか。
笠岡市市民病院	・避難場所になっていないが、いざ災害が起こると、そういった機能も必要というふうには考えている。最初から避難に依拠してしまうと、機能しなくなる可能性もあるので、避難所としては今は指定はしていない。
委員	・避難所ではないんですね。だけれど患者さんがおられるわけですから、その食料など要りますよね。そういう点も含めて99床のすごく大きい倉庫があるような具合になってしまうとかあると思うが、よろしくをお願いします。
委員	・笠岡市の島に診療に行かせていただいているが、離島医療のことは

7月から救急医療の一端として、救急艇が実際に動くようになる。そういうことで期待しているところが大きい。よろしくお願いします。なかでも笠岡消防組合には非常にお世話になっていて感謝している。

・今、診療科目のところ、診療科目標榜科目は13科を基本とするということで、6ページの下に内科からリハビリテーション科までである。その中に産婦人科っていうのが書いてあるが、今は実働をしていないですよ、確か。今後ですね、分娩を保険診療に入れようじゃないかという話があったりするが、その辺りのことは、今どういうふう考えておられるのか。

・笠岡圏域からすると、周産期のことがあまり書かれていない。小児医療はあるが、周産期医療を受ける人たちが安心して生活できるようにしていただかないと、これから出産や子育てをしようかという職員も結局、町に移って行って、職員が欠けてしまうという現状が起こっている。その辺りはどのように考えていただけるのか。

・民間病院がこれをやると、採算が取れにくいっていうのもあるかもしれない。こういうことこそ公立病院の役割じゃないかと思うが、その辺りはどのようにお考えか。

委員

・本来でしたら笠岡市あるいは笠岡市民病院にお答えをしていただくようになるが、今お話をされたことを補足すると、笠岡市民病院はその昔は確かに出産を扱っていたが、今は分娩は扱っていない。

・実は笠岡地区で分娩を取り扱っているのは、一つの民間の医療機関、笠岡医師会に所属の民間の医療機関。ただちょっと諸事情があり、今年いっぱい閉院したいという話が本当に最近出てきた。本当にここ1ヶ月程。2週間ほどですかね。私も聞いてびっくりしたが、今は医師会だけでなく、地元の笠岡市もその辺をどうしようかとか、実は保健所の方々にもいろいろお話をして、まだどういう方向を取ったら一番いいのかと考えているところです。

・出生数が減っているというところもあるし、お一人の産婦人科の先生にこれまでおんぶに抱っこでしてきた。一時的に泊まりに来てくださる先生方はいらっしゃったとしても、最終的に全責任がその先生にかかっていくので、やっぱり大変な状況がこれまでずっと続いてきたということもある。私たちもそれに頼ってきたのでちょっと非常に申し訳ないなと思いつつ、そういう事情で今まで担ってきたのが、今年いっぱいやめられる状況になった。私たちも医師会単独で動くことはなかなか難しいが、笠岡市とも話をしながら、あるいは周辺の自治体の皆様にもこれからご協力をいただかないといけないかもしれない。

<p>笠岡市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どういう方向が一番望ましいのか。これから出生数が徐々に減って、国が考えているように少子化対策が非常に進んでいって、今よりもっともっと出産数が増えればいいが、それまでの間どういう状況になるのか、その辺のことを考えるとなかなか難しいと思う。 ・ 先ほど先生の方から言われましたが、長年分娩のできる医療機関として、頑張っていたことに対して大変感謝している。今回の閉院は苦渋の決断であったと考えている。 ・ 井笠地域を中心に年間約350件を超える分娩を取り扱ってきたクリニックが閉院することになり、笠岡市内だけでなく井笠地域での分娩ができる医療機関がなくなってしまう。笠岡市としては、出生数の半数以上がこのクリニックでの分娩していることを考えると、これから妊娠出産を考えている市民の皆様の安全安心な妊娠出産ができる環境について、どのような課題があるか考えていかなければならない。今後の対応については、岡山県や地元医師会と連携をし、どういった体制がいいのか十分検討していきたい。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倉敷においても倉敷市立病院で産婦人科を再開させるのにすごく苦労した。分娩できる医療機関が井笠に一施設もないというのはちょっとやっぱり考えるところ。実際にどこまでできるのか非常に難しいけれど、できることはよろしくお願ひしたい。

【2 県南西部地域医療構想について】

① 病床機能報告について（資料5-①参照）

事務局から、資料による説明

② 地域医療構想を踏まえた対応方針について ～非公開～